

新型コロナの治療薬 10月から一部自己負担で“薬控え”相次ぐ さらなる感染拡大に懸念 福岡

2023/10/5 テレビ西日本



<https://news.yahoo.co.jp/articles/bae1332d53eed6157ba1d998995c9378df20bab8>

感染者があとを絶たない新型コロナ。

10月に入り、治療に欠かせない薬を巡って「新たな懸念」が出てきています。

福岡の現場取材しました。

10月5日に訪ねたのは—

◆川崎キャスター

「きょうは、福岡市内のクリニックに来ています。朝から予約が入っているんですけど、皆さん、コロナのワクチン接種を受けています」

クリニックで行われていたのは、福岡市で9月25日から始まっている新型コロナワクチンの「秋接種」です。

今回の接種には、オミクロン株「XBB. 1. 5」に対応したワクチンが使用されていて、無料接種は今回が最後となる見通しです。

Q. コロナワクチン接種は何回目ですか？

◆接種した人（68）

「7回目です。やっぱりワクチン打つと安心できますね」

◆接種した人（84）

「やっぱり年だから、人に迷惑をかけてもいけないし」

秋のワクチン接種の予約状況を聞いてみると—

◆ふくろのクリニック 袋野和義 院長

「10月は、ほとんど埋まっています。11月の半ばまでが予約対象期間ですが、11月もほとんど埋まりつつあります」

5日に福岡県が発表した9月25日から10月1日までの1週間で報告された新型コロナ

の患者数は、1医療機関あたり8.38人。

これから冬にかけて、インフルエンザとの同時流行も心配される中、10月に入って「新たな懸念」も出てきています。

◆ふくろのクリニック 袋野和義 院長

「10月以前の公費の時は、ほとんど全員に勧めていた」

医師がこう話すのは、新型コロナの治療薬。

これまでは全額公費負担でしたが、10月から一部自己負担になり、最大で9000円を支払うこととなります。

このクリニックでは、治療薬の自己負担額の見直しを受けて、すでに新型コロナの治療薬の処方断る、いわゆる”薬控え”が起きているといいます。

◆ふくろのクリニック 袋野和義 院長

「若い人が、仕方がないが、料金もあるということで、薬の処方を断られることが多い」

Q. コロナの薬の処方控え、どう思う？

◆ふくろのクリニック 袋野和義 院長

「本人にとってはお金もいるし、後遺症・重症のことは全く頭がないと思うから、仕方ないと思います。薬価が下がってインフルエンザ並みになってくると助かると思います」

この「薬控え」については、福岡市医師会も「医療費の自己負担が増えることで、体調に

10月からのコロナ治療薬	
自己負担割合	1割 (75歳以上) 3000円
	2割 (70~74歳) 6000円
	3割 (6~69歳) 9000円

異変を感じても受診を控える人が増え、さらなる感染拡大が懸念される」としています。

10月から医師会も懸念している「薬控え」。

コロナ治療薬が一部自己負担になった事で、若者を中心に「あえて薬をもらわない」という人が出てきました。

具体的に金額を見ていくと、年収によ

って異なりますが、原則75歳以上は1割負担で薬代3000円を手出し。

6歳から69歳は3割負担で、薬代は最大9000円を手出し。

多くの方がここに当てはまります。

そして、コロナワクチンに関しても、政府は「全年代で無料」という対応を今年度いっぱい終了することを決めました。

来年度以降は、高齢者以外は自己負担が生じる可能性があります。

ワクチン接種は、今以上に個人判断となっていくと思いますが、冬場に感染が急拡大したら、改めて、マスクや手洗いで予防を心がける事も大切です。

コロナ ワクチン接種 全世代無料終了へ	
今年度まで	全世代 無料
方針	来年度から 高齢者以外 自己負担か